

GALE PRIMARY SOURCES

POLITICAL EXTREMISM
AND RADICALISMMYTHS OF
THE OLD WA

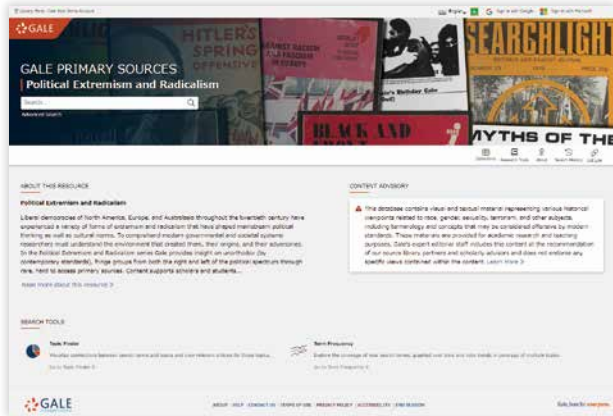
世界の社会主義、共産主義運動に関する78万ページの文書群を
光学文字認識と手書き文字認識でフルテキスト検索



Political Extremism and Radicalism Global Communist and Socialist Movements

Political Extremism and Radicalism Global Communist and So

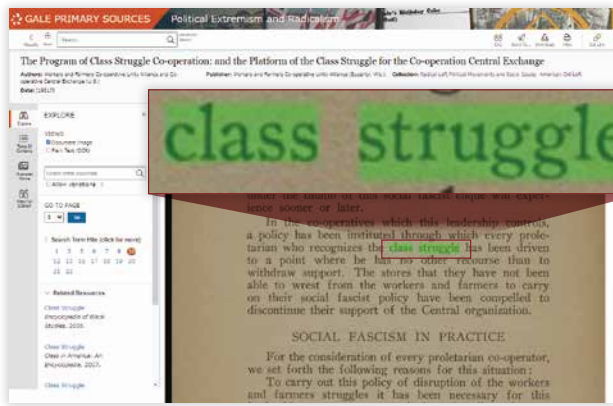
政治的急進主義に関する歴史資料を電子化して提供するデータベースシリーズ *Political Extremism and Radicalism* の第3集は、共産主義と社会主義に関する文書を収録します。社会主義、共産主義、無政府主義、協同組合主義を掲げた政党等の団体、党员、個人、連邦捜査局 (FBI) 等の文書を通して、20世紀に大きな政治潮流を形成した共産主義・社会主義運動に光を当てます。大英図書館、ロンドン大学、カリフォルニア大学デービス校、イェール大学、ニューヨーク大学、ハーバード・ロースクール、FBI等の図書館・文書館が所蔵する約87万ページに及ぶ文書群は米国、英国、フランス、ドイツ、ロシア、東欧諸国からインド、中国、南アフリカ、中南米諸国まで世界各地を広くカバーします。対象期間は18世紀後半から21世紀初頭までの約250年間をカバーしますが、1880年頃から1950年頃までの時期の文書がコアをなします。



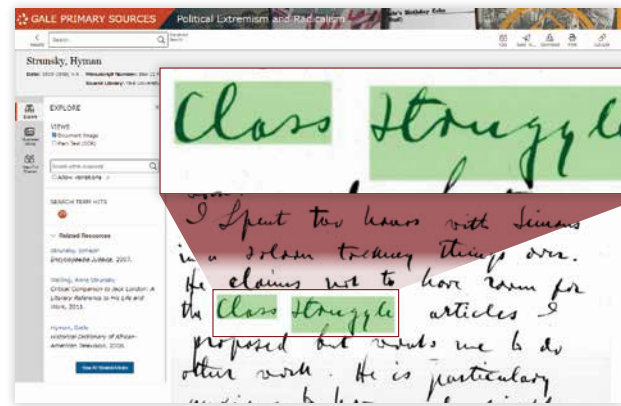
トップページ

Manuscript Number	Document Title	Date
Box 1 Folder 1	List of Files in Hiss Personal 2395, 1	n.d.
Box 1 Folder 2	List of Files in Hiss Personal 2395, 2	1948-1950; n.d.
Box 1 Folder 3	Altman, George T.	March 15, 1957-November 19, 1963
Box 1 Folder 4	Amerasia	January 17-May 3, 1949
Box 1 Folder 5	Baltimore Documents, Memos, Etc., 1	January 4-March 12, 1949; n.d.
Box 1 Folder 6	Baltimore Documents, Memos, Etc., 2	February 3, 1949-March 18, 1953; n.d.
Box 1 Folder 7	Baltimore Documents, Memos, Etc., 3	January 3, 1938-October 27, 1943
Box 1 Folder 8	Barnes, Joseph	October 31, 1948-March 3, 1949
Box 1 Folder 9	Beer, Walter E., Jr.	October 20, 1950-December 8, 1959
Box 1 Folder 10	Berjamin, Robert M.: Correspondence	March 22, 1951-May 6, 1960
Box 1 Folder 11	Berjamin, Robert M.: Legal Research, 1 (Appeal from Conviction)	n.d.
Box 1 Folder 12	Berjamin, Robert M.: Legal Research, 2	n.d.
Box 1 Folder 13	Berjamin, Robert M.: Legal Research, 3	n.d.
Box 1 Folder 14	Berjamin, Robert M.: Legal Research, 4	n.d.
Box 1 Folder 15	Berjamin, Robert M.: Legal Research, 5	n.d.
Box 1 Folder 16	Berjamin, Robert M.: Legal Research, 6	n.d.

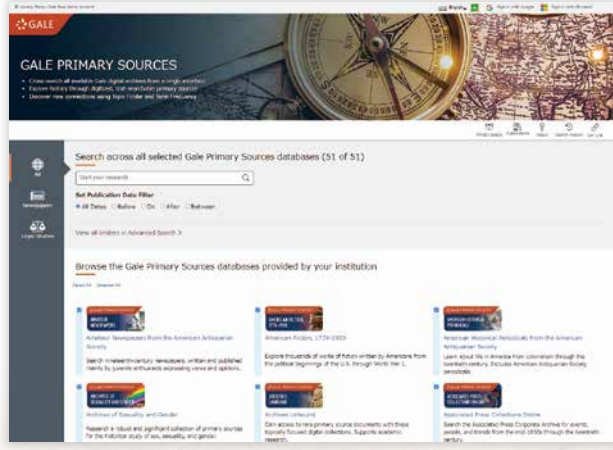
パンフレット以外の書簡等の文書を含むコレクションは文書タイトル、年代を示した一覧ページが設けられ、各文書にハイパーリンクされています。



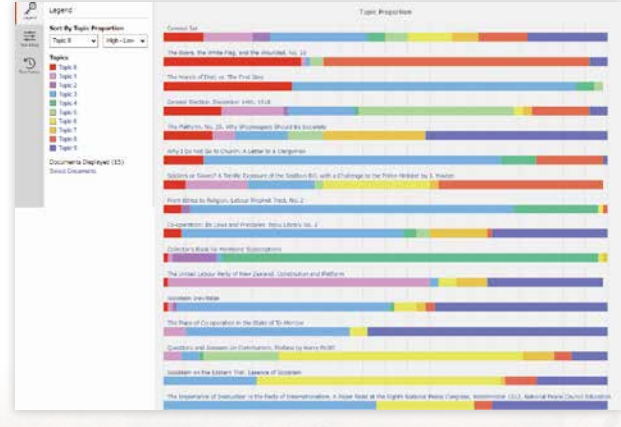
一字一句までフルテキスト検索。検索語はハイライト表示



手書き文書をフルテキスト検索する手書き文字認識 (Handwritten Text Recognition) を実装



統合検索プラットフォーム Gale Primary Sources では追加コストなしで導入済の Gale の買切データベースとの横断検索ができます。



別契約の Gale Digital Scholar Lab ではテキストマイニングのツールをご利用になれます。この例は英国の社会主義、共産主義のパンフレットに関するトピックモデリングの分析結果を表示したものです。

cialist Movements

データベースの概要

● 収録コレクション/収録資料の年代/収録資料/収録資料の言語/原資料所蔵機関

- ◆ 「1884年以降のイギリスにおける社会主義と労働思想」 / 1884年-1945年 / パンフレット / 英語他 / Independent Labour Publications
- ◆ 「独立労働党アーカイブ」 / 1856年-1975年 / パンフレット、書簡他 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / 英語、フランス語、ドイツ語他 / Independent Labour Publications
- ◆ 「ペリング・コレクション」 / 1800年-1999年 / パンフレット / 英語他 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「急進雑誌コレクション」 / 1921年-1947年 / 雑誌 / 英語 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「イギリスにおける反社会主義団体」 / 1870年-1914年 / 雑誌 / 英語 / 大英図書館
- ◆ 「アル・リチャードソン、ジム・ヒギンズ文書」 / 1900年-1999年 / パンフレット、雑誌、報告書・チラシ・書簡 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / 英語、フランス語、ポーランド語他 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「ウィル・ファンシー文書」 / 1936年-1947年 / 雑誌、ニュースレター / 英語 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「アラン・クリントン文書」 / 1918年-1955年 / パンフレット / 英語他 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「急進左翼政治運動と社会問題：米国の旧左翼」 / 1800年-1950年 / パンフレット / 英語他 / カリフォルニア大学デービス校
- ◆ 「ローズ・バスター・ストークス文書」 / 1900年-1958年 / 書簡・報告書 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / 英語 / イェール大学図書館
- ◆ 「アンナ・ストランスキー・ウォーリング文書」 / 1871年-1964年 / 書簡 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / 英語他 / イェール大学図書館
- ◆ 「ウォルター・リップマン文書」 / 1906年-1974年 / 書簡 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / 英語他 / イェール大学図書館
- ◆ 「アルジャー・ヒス弁護関係文書」 / 1922年-1980年 / 裁判記録・書簡 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / 英語他 / ハーバード・ロースクール図書館
- ◆ 「アルジャー・ヒス文書」 / 1892年-2004年 / 書簡他 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / 英語他 / ニューヨーク大学タリメント図書館
- ◆ 「FBI 米国在郷軍人会連絡員計画文書集」 / 1940年-1942年 / タイプ打ち原稿 / 英語 / FBI 図書館
- ◆ 「FBI ロバート・オッペンハイマー文書」 / 1950年-1959年 / タイプ打ち原稿 / 英語 / FBI 図書館
- ◆ 「スティーン・グラハムコレクション」 / 1931年 / 英語 / 手書き文書 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「バラージュ・ナジ文書」 / 1936年-1947年 / 雑誌・報告書 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / フランス語 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「南アフリカ労働者党文書」 / 1938年-1944年 / タイプ打ち原稿、手書き文書 / アフリカンス語、英語 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「バルーク・ハーソン文書」 / 1905年-1947年 / 書簡・報告書・雑誌 (タイプ打ち原稿、手書き文書) / 英語他 / ロンドン大学図書館
- ◆ 「チリ・ボリビア政治パンフレット集成」 / 1952年-2012年 / パンフレット / スペイン語、英語、フランス語他 / ロンドン大学図書館

- **機能**：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDF ファイルのダウンロード、OCR/HTR テキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google / Microsoft ログインとクラウド連携を実装

Political Extremism and Radicalism シリーズ

Part I: Far-Right and Left Political Groups in the U.S., Europe, and Australia in the Twentieth Century

20世紀の急進的な政治的主張を掲げた団体・人物とその活動について、政治的な右派、左派を問わず光を当てます。イギリスとアメリカを中心にヨーロッパ、オーストラリア、ラテンアメリカ、中東、アジアなど世界各地域に及びます。報道・分析資料の主要なものは、極右団体を監視する目的で1970年代に創刊されたイギリスの雑誌 Searchlight です。Searchlight が反ファシスト活動家に対して行ったインタビューの音声記録も見逃せません。アメリカについては、公民権運動、反戦運動、学生運動、宗教右派、ニューライト等、政治運動の人物、団体、出来事に関する新聞・雑誌の切り抜きを項目ごとに収録しています。その他、戦間期、戦時期、戦後にかけてファシズムを主題にして刊行された書籍、パンフレットも多数収録されています。政府資料は、第二次大戦中のイギリスが公共の安全を脅かす恐れのある人物を予防拘禁した際の内務省文書、並びにイギリス情報局保安部が収集した極右や共産党系の人物の個人情報で、2010年代に機密解除されたファイルです。

Part II: Far-Right Groups in America

アメリカの極右団体、極右思想に関する一次資料約44万ページを収録します。アメリカ政治の周縁的存在として注目を浴びることがなかった極右団体が、トランプ政権を誕生させた政治的地殻変動の中で、メディアの表舞台に姿を現し、学問的関心を集めるようになりました。カトリック系移民を始めとする外国人の排除を主張したアメリカ党、白人至上主義のクワ・クラックス・クラン、反社会主義や反共産主義を唱えたジョン・バーチ協会や反社会主義連合、移民流入規制を主張した米国移民規制財団、白人至上主義を唱え人種統合に反対した市民会議、反ニューディール運動を展開したアメリカ自由連盟、反ユダヤ主義を掲げたキリスト教国民十字軍等の極右団体が発行した刊行物や文書から、クリスチャン・アイデンティティ運動を展開した保守系キリスト教団体の刊行物、さらには保守・極右思想家の著作、極右団体や人物に関するFBIの文書まで、19世紀以降米社会に連綿と流れてきた極右思想の地下水脈を浮き彫りにするアーカイブです。

◆注意◆

本シリーズに収録されている文献には、人種、民族、宗教、ジェンダー、セクシュアリティなどに関して、多くの人々に許容しがたい偏狭な見識や歪曲された主張が含まれています。これらの文献は学術研究や教育目的で提供されるもので、弊社は一切そうした主張に与するものではありません。

収録コレクションの概要

イギリス

1884年以降の英国における社会主義と労働思想 [Socialist and Labour Thought in Britain Since 1884]

全国禁酒連盟、土地国有化協会、キリスト教社会連合、人道主義連盟、グラスゴー労働組合評議会、労働の預言者、女性解放連合、友愛トラスト、コモンウィール、メトロポリタン急進連盟、連合王国労働組合連合、クラリオン、社会主義連盟、ダンディー労働教会、ハマースミス社会主義協会、嫡子化連盟等、19世紀末から20世紀前半の英国における社会主義、急進主義、労働運動をカバーします。

独立労働党アーカイブ [Archives of the Independent Labour Party]

自由党が労働者階級の候補者の後援に後ろ向きである状況の中、独立労働党が1893年に結党しました。パンフレット、チラシ、議事録、全国運営評議会や支部の記録、フランシス・ジョンソンの書簡を収録します。

ペリング・コレクション [Pelling Collection]

イギリスの労働史家ヘンリー・ペリングが蒐集した1880年代から1970年代の英国左翼の政治パンフレット約800点。英国共産党関係の文書のほか、労働党、独立労働党、赤色労働組合インターナショナル関係の文書も含まれます。

急進雑誌コレクション [Radical Periodicals]

■収録雑誌

- ◆ The New International: A Monthly Organ of Revolutionary Marxism
- ◆ The Labour Monthly: A Magazine of International Labour
- ◆ The Youth Militant
- ◆ The Militant for Revolutionary Socialism
- ◆ Militant: Organ of the Militant Labour League
- ◆ The Communist International: Monthly Organ of the Executive Committee of the Communist International
- ◆ La Verité: organe théorique communiste internationaliste
- ◆ Quatrième Internationale: Organe du Comité Exécutif Européen de la IV^e Internationale
- ◆ Left
- ◆ The Communist Review
- ◆ Militant: Organ of the Socialist Left of the Labour Party
- ◆ Fourth International: the monthly magazine of the Socialist Workers Party
- ◆ The New Leader: The paper of the Independent Labour Party
- ◆ The Militant: Weekly Organ of the Communist League of America
- ◆ New Militant: Official Organ of the Workers Party of the US
- ◆ Socialist Appeal: Official Organ of the Socialist Workers Party, Section of the Fourth International

イギリスにおける反社会主義団体 [Anti-Socialist Organisations in Britain]

19世紀後半から20世紀初頭にかけてのイギリスで反社会主義を旗印に掲げて発行された雑誌を収録します。リバータリアニズムから急進左翼まで、様々な観点からの社会主義批判の潮流に光を当てます。

■収録雑誌

- ◆ The Journal of the Vigilance Association for the Defence of Personal Rights (1881-1886)
- ◆ The Personal Rights Journal (1886-1892)
- ◆ Personal Rights: A Monthly Journal of Freedom and Justice (1893-1903)
- ◆ The Individualist: A Monthly Journal of Personal Rights (1903-1914)
- ◆ The Liberty Review: A Weekly Journal Devoted to the Defence of Freedom and of the Right of Property (1893-1894)
- ◆ The Liberty Review: Property Owners; Guardian and Free Labour Advocate (1895-1895)
- ◆ The Liberty Review: A Journal of Politics, Economics, Sociology and Individualism (1895-1909)
- ◆ Jus: A Weekly Organ of Individualism (1887-1888)
- ◆ Capital and Labour: A Weekly Journal of Facts and Arguments on Questions Relating to Employers and Employed (1873-1882)
- ◆ The Anti-Socialist: A Newspaper and Review of Politics, Events and Literature (1909-1910)
- ◆ Liberty: The Organ of the Anti-Socialist Union of Great Britain (1911-1912)
- ◆ Free Labour: A Monthly Journal Devoted to the Emancipation of Industry as a Voluntary Right (1896-1897)
- ◆ Free Labour: Ashore and Afloat (1897-1899)
- ◆ The Free Labour Press and Industrial Review (1899-1909)
- ◆ The Elector: The Official Organ of the Centre Party Union and the Middle-Class Defence Organisation (1909-1911)

アル・リチャードソン、ジム・ヒギンズ文書 [Al Richardson and Jim Higgins Papers]

英国の社会主義者でトロツキストのアル・リチャードソンとジム・ヒギンズが関わった政党や団体のパンフレットやチラシや議事録、世界各国のトロツキスト系団体の雑誌やパンフレットです。

ウィル・ファンシー文書 [Will Fancy Papers]

英国の労働組合活動家でトロツキスト系社会主義者のウィル・ファンシーが関わった政党や団体の文書です。

アラン・クリントン文書 [Alan Clinton Papers]

ロンドンのイズリントンで地方政治に携わる傍ら、歴史家として労働史の分野で業績を残したアラン・クリントンが蒐集した社会主義、共産主義関係のパンフレットです。

アメリカ

急進左翼政治運動と社会問題：米国の旧左翼 [Radical Left Political Movements and Social Issues: American Old Left]

19世紀から20世紀にかけて展開された左翼の政治、社会、文化運動を記録する書籍、パンフレット、短命出版物を収録します。社会主義、共産主義、アナキズム、反戦運動、平和運動、学生運動、第3世界の解放運動、反グローバリズム運動等をカバーします。

ローズ・パスター・ストークス文書 [Rose Pastor Stokes Papers]

アメリカ共産党の創設メンバーの一人で、労働者と女性の地位改善に生涯を捧げたローズ・パスター・ストークスの書簡、著述（刊行・未刊行）、新聞切り抜き、描画等を収録します。

アンナ・ストランスキー・ウォーリング文書 [Anna Strunsky Walling Papers]

アメリカの社会主義者アンナ・ストランスキー・ウォーリングの書簡を中心とする文書を収録します。

ウォルター・リップマン文書 [Papers of Walter Lippmann]

米国のジャーナリストで政治評論家で、メディア論の名著『世論』で名高いウォルター・リップマンがハーバード大学の学生時代から1974年に逝去するまでの約70年間に亘って残した書簡を中心とする文書を収録します。

アルジャー・ヒス弁護関係文書 [Alger Hiss Defense Collection]

国務省幹部として第二次大戦中に戦後安全保障体制の設計に携わり、戦後の赤狩りの時代にスパイ容疑で告発されたアルジャー・ヒスの裁判で弁護側がヒスの無罪を立証するために集めた書簡、覚書、報告書、聞き取り調査等の文書群で、裁判の全体像と事件の背景を探る上で格好の資料集。ヒスと家族、友人、同僚、告発者、支持者、証人、弁護士に関する人物ファイルも収録されています。

アルジャー・ヒス文書 [Alger Hiss Collection]

ヒス家文書、ジョン・ローウェンサール文書、アグニース・ネルムス・ホーリー文書、ウィリアム・A・ルーベン文書の4つの文書で構成されています。ヒスと家族の発信書簡・受信書簡、面談記録、法律文書、覚書等の文書群を収録し、ヒスの生涯と再審請求のための闘いに光を当てます。「アルジャー・ヒス弁護関係文書」との収録文書の重複はありません。

FBI 米国在郷軍人会連絡員計画文書集 [FBI American Legion Contact Program]

米国在郷軍人会と協力して共産主義者やシンパの活動に関する情報を収集した連邦捜査局（FBI）連絡員計画に関する文書です。

FBI ロバート・オッペンハイマー文書 [FBI File on J. Robert Oppenheimer]

米国の理論物理学者で、ロスアラモス研究所所長としてマンハッタン計画を主導し「原爆の父」と呼ばれながら、戦後は水素爆弾製造計画に反対し核兵器の国際管理の必要を訴えたロバート・オッペンハイマーは、過去に共産主義者と関わりを持っていたことも災いして、赤狩りの時代に公職追放となり、FBIの監視下に置かれました。電話の盗聴記録、開封書簡、同僚や知人の尋問記録で構成される文書群はオッペンハイマー個人と1940年代から1950年代にかけての米国の知識人・科学者の世界に光を当てます。

ロシア・東欧

スティーヴン・グラハムコレクション [Stephen Graham Collections]

革命前のロシアに滞在した経験のある英国のジャーナリストで旅行作家スティーヴン・グラハムがロシアの文化、文学、政治について行なった講義用ノート（手稿）です。

バラージュ・ナジ文書 [Balazs Nagy Papers]

ハンガリーに生まれフランスでトロツキストとして活動したバラージュ・ナジ（ミシェル・ヴァルガ）がアルベール・カミュやピエール・ブルーエらと交わした書簡や回想録、第4インターナショナルに関する文書です。

南アフリカ

南アフリカ労働者党文書 [Workers' Party of South Africa]

南アフリカのトロツキストの政党、南アフリカ労働者党の1930年代から1940年代にかけての文書です。

バルーク・ハーソン文書 [Baruch Hirson Papers]

南アフリカの医者、作家で政治運動にも関わったバルーク・ハーソンの文書とハーソンが集めた文書群です。共産党、南アフリカ労働者党、労働者国際連盟等の左翼政党や組織から女性参政権運動まで、南アフリカの政治と歴史に関する文書群です。

ラテンアメリカ

チリ・ボリビア政治パンフレット集成 [Chile and Bolivia: Political Pamphlets]

軍政下のチリ（ピノチェト独裁）とボリビア（1964年から1982年まで）における左翼政党、労働組合、人権団体、カトリック教会関係の文書です。

上記の各種コレクションにはパンフレット、雑誌、書簡、チラシ、報告書等の文書が収録されていますが、このうちパンフレットは総計約9,600点以上に上ります。また、イギリスのコレクションにイギリス以外の地域に関するパンフレットが収録されているなど、コレクションとパンフレットは必ずしも地域的に一致していません。そのため以下ではコレクション名を明示せず、収録パンフレットの一部を紹介します。

収録パンフレット(例)【以下に挙げるのはすべて英語です】

イギリス

■フェビアン協会

- ◆ シドニー・ウェブ『政府はいかに失業を防ぎうるか』(1912)
- ◆ シドニー・ウェブ『疾病者に対する完全なる国家的給付』(1912)
- ◆ シドニー・ウェブ『法定最低賃金』(1912)
- ◆ シドニー・ウェブ『救貧法の廃止』(1918)
- ◆ ペアトリス・ボッター『協同組合と労働組合主義の関係』(1892)
- ◆ 『社会民主主義への英国の進歩』(フェビアン協会小冊子)(1890)
- ◆ 『8時間労働法案の擁護』(フェビアン協会小冊子)(1891)

■労働党・独立労働党

- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ『労働組合の政治』(1897?)
- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ、フィリップ・スノーデン他『労働の政治：シンポジウム』(1903)
- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ『労働党が世界を支配するとき』(1905)
- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ『失業法案：無職と飢え』(1905?)
- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ『独立労働党のすべて』(1908?)
- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ『倫理と政治』(1908)
- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ『20年後：独立労働党のすべて』(1913)
- ◆ フランク・スミス『炭鉱から議会議会へ：ケア＝ハーディの生涯』(1916?)
- ◆ J. ブルース・グラシエ『ケア＝ハーディの思い出』(1919?)
- ◆ フランシス・ジョンソン『ケア＝ハーディの社会主義』(1922)
- ◆ エムリス・ヒューズ『ケア＝ハーディ、若干の回想』(1934?)
- ◆ ジェイムズ・マクストン『ケア＝ハーディ、預言者にして先駆者』(1936?)
- ◆ アーサー・ヘンダーソン『労働党と戦後経済政策』
- ◆ アーサー・ヘンダーソン『労働党の平和条件』
- ◆ ラムゼイ・マクドナルド『ギャンプルとシティズンシップ』(1905?)
- ◆ ラムゼイ・マクドナルド、ヒリア・ベロック『社会主義と隷従国家：論争』(1911)
- ◆ ラムゼイ・マクドナルド『成人学校と民主主義』(1914?)
- ◆ ラムゼイ・マクドナルド『富の徴収』(1916?)
- ◆ ラムゼイ・マクドナルド『戦後の社会主義』(1919?)
- ◆ ラムゼイ・マクドナルド『言論の自由の危機』(1925)
- ◆ ラムゼイ・マクドナルド『独立労働党の歴史』
- ◆ フィリップ・スノーデン『独立労働党の目的と政策』(1904)
- ◆ フィリップ・スノーデン『ハーマスミスのタウンホールでの社会主義論争』(1907)
- ◆ フィリップ・スノーデン『社会主義と全面的禁酒主義』(1909)
- ◆ フィリップ・スノーデン『社会主義下の個人』(1909?)
- ◆ フィリップ・スノーデン『生活賃金』(1912?)
- ◆ フィリップ・スノーデン『戦争の負担をするのは誰か』(1915)
- ◆ フィリップ・スノーデン『労働党が統治するならば』(1923)
- ◆ チャールズ・トレヴェリアン『土地税制と土地の使用』(1905)
- ◆ チャールズ・トレヴェリアン『資本主義への挑戦』(1933?)
- ◆ チャールズ・トレヴェリアン『戦争に対する大衆の抵抗』(1934)
- ◆ G.D.H. コール『社会主義の原理』(1914)
- ◆ G.D.H. コール『労働者による産業管理』(1919)

- ◆ G.D.H. コール『社会主義者のための産業政策』(1925)
- ◆ G.D.H. コール『銀行の社会化』(1932?)
- ◆ G.D.H. コール『ベヴァレッジ報告解題』(1942)
- ◆ ハロルド・ラスキ『正義と法』(1930)
- ◆ ハロルド・ラスキ『ローズヴェルトの実験』(1933?)
- ◆ R.D. デンマン『労働党と1931年の危機』(1931)
- ◆ R.H. トーニー『教育の社会主義政策』(1924)
- ◆ R.H. トーニー『労働党が直面する選択』(1934)
- ◆ アーサー・ボンソンビー『政治における宗教』(1923?)
- ◆ ベン・ティレット『労働組合主義と社会主義』(1897)
- ◆ ベン・ティレット『港湾労働者組合小史』(1910)
- ◆ アーネスト・ベヴィン『200万人の失業者のための私の計画』(1933?)
- ◆ アーネスト・ベヴィン『外交』(1946)
- ◆ クレメント・アトリー『英国の外交政策』(1946)
- ◆ 『ロンドン労働党の活動』(全4巻)(1927-1931)
- ◆ 『独立労働党年次大会報告』(1893-1971)
- ◆ 『労働党は自由党と合同すべきか：論争』(1907?)

■ハーマスミス社会主義協会

- ◆ ウィリアム・モリス『芸術と社会主義：レスター世俗協会講演』(1884)
- ◆ ウィリアム・モリス『有益な労働と無益な労苦』(1885)
- ◆ ウィリアム・モリス『芸術の目的』(1887)
- ◆ ウィリアム・モリス『楡の木の下で』(1891)
- ◆ W. モリス『独占、あるいはいかにして労働は盗まれるか』(1893)
- ◆ ウィリアム・モリス『王の教訓』(1909?)
- ◆ ジョン・リーサム『ウィリアム・モリス、万能の巨匠』(1934)
- ◆ ウォルター・クレイン『芸術と公益』(1912?)
- ◆ 『ハーマスミス社会主義協会の原理の声明』(1890)

■共産党

- ◆ 『英国共産党党員便覧 第1部：組織』(1923)
- ◆ 『英国共産党第7回党大会報告』(1925)
- ◆ 『国際情勢：英国共産党第8回党大会への報告』(1926)
- ◆ 『英国共産党第11回党大会決議集』(1929)
- ◆ 『英国共産党第14回党大会報告』(1937)
- ◆ 『英国共産党：その理論と実践』(1942)
- ◆ ギイ・A・アルドレッド『共産主義研究』(1940)
- ◆ オシップ・ピアトニツキー『社会民主主義の伝統の切断によってポリシェビキ化する共産党』

■土地国有化協会

- ◆ アルフレッド・ラッセル・ウォレス『土地国有化の「なぜ」と「いかにして」』(1884?)
- ◆ ジョゼフ・ハイダー『地主制の呪いとそれを取り除く方法』(1896)
- ◆ ヘンリー・R・アルドリッジ『労働者のためのより良き家とそれを獲得する方法』(1901)

- ◆ アナイリン・ウィリアムズ『失業と土地問題』(1909)
- ◆ フレデリック・フェリンダー『土地国有化の方法：土地国有化協会の提言の批判的検討』(1918)

■キリスト教社会主義

- ◆ ジョン・カーター『商業の道徳』(1893)
- ◆ ジョン・カーター『キリスト教社会主義』(1905)
- ◆ ブルック・フォス・ウェスコット『キリスト教の法』(1896)
- ◆ ブルック・フォス・ウェスコット『社会主義』(1907)
- ◆ 『キリスト教の原理に基づく社会改革』(キリスト教社会主義協会) (1900?)
- ◆ セシル・チェスタトン『社会主義の基礎』(1905?)
- ◆ C. スチュアート・スミス『社会主義者と教会』(1910?)
- ◆ アーネスト・バーカー『ナショナリズムとインターナショナリズム』(1915)

■人道主義連盟

- ◆ ヘンリー・S. ソルト『人道主義：その一般原理と進歩』(1906)
- ◆ ヘンリー・S. ソルト『社会主義の核心』(1926?)
- ◆ ハリー・ロバーツ『病院の公的管理』(1895)
- ◆ E. カーペンター『監獄に人間性を与える』(1899?)
- ◆ E. カーペンター、エドワード・メイトランド『生体解剖』(1898)
- ◆ E. カーペンター『合理的で人道的な科学の必要性』(1902?)
- ◆ ピュバシア・ブラッドロー・ボナー『絞首刑と鞭打ち刑』(1897)
- ◆ ピュバシア・ブラッドロー・ボナー『死刑』(1903)

- ◆ ジョセフ・コリンソン『鞭打ちに関する事実』(1902)

■協同組合運動

- ◆ ジョセフ・クレイトン『ロバート・オーウェン：社会改革のパイオニア』(1908)
- ◆ エルバート・ハバード『ロバート・オーウェン』(1919)
- ◆ ジョージ・ジェイコブ・ホリョーク『死の論理』(1902)
- ◆ W. ヘンリー・ブラウン『ジョージ・ジェイコブ・ホリョーク』(1906?)
- ◆ W. ヘンリー・ブラウン『チャールズ・キングズレー』(1906?)
- ◆ 『英国とアイルランドの協同組合』(英国協同組合連合) (1924)
- ◆ T.W. マーサー『協同組合連合：組織と運営』(1925)
- ◆ シドニー・R. エリオット『協同組合と社会主義』(1926)
- ◆ 『協同卸売組合の64年、1864年-1929年』(1929)
- ◆ エリス・カウリング『消費者協同組合序説』(1935)
- ◆ フレッド・ロングデン『協同組合党と労働党の間にはなぜ確執が起こるのか?』(1935)
- ◆ デズモンド・フラナガン『協同組合運動の最初の100年』(1944)
- ◆ 『カトリック教会の人々と協同組合』(カトリック協同組合委員会) (1944)
- ◆ J. ベイリー『協同組合党：組織の概要』(1944?)

■アナキズム

- ◆ 『アナキスト宣言』(ロンドンアナキスト・共産主義者連盟) (1895)
- ◆ ジョージ・バーナード・ショー『アナキズム対国家社会主義』(1889)
- ◆ 『フリーダム・プレスの歴史 1886年-1941年』(1941)

フランス

- ◆ ヘンリー・シーモア『P.J. ブルードン：伝記的素描』(1890?)
- ◆ チャールズ・A. デイナ『ブルードンとその人民銀行』(1896)
- ◆ ルイ・ブラン『競争という悪』(1891)
- ◆ ポール・ラファルグ『怠ける権利』(1893)
- ◆ ポール・ラファルグ『社会主義と知識人』(1900?)
- ◆ ポール・ラファルグ『資本の宗教』(1919)
- ◆ ポール・ラファルグ『アダムとイブの神話』(1928)

- ◆ ジュール・ゲード『集産主義』(1895)
- ◆ ジェイムズ・トマス・フィンドレー『フランスの社会主義』(1897)
- ◆ ジャン・ジョレス『国際主義と平和』(1903)
- ◆ 『社会主義：フランス議会におけるクレマンソー・ジョレス論争』(1907)
- ◆ エミール・ブージュ『サボタージュ』(1913)
- ◆ エリゼ・ルクリュ『アナキストのアナキズム論』(1895)
- ◆ エリゼ・ルクリュ『理想と若者』(1895)

ドイツ

- ◆ カール・マルクス『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』(1898)
- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ『カール・マルクス：人物とメッセージ』(1910?)
- ◆ ガス・タイラー『マルクスの生涯』(1935?)
- ◆ ポール・ラファルグ、ヴィルヘルム・リープクネヒト『カール・マルクス、その生涯と作品』(1943)
- ◆ 『マルクスの意味：シンポジウム』(バートランド・ラッセル、シドニー・フック、ジョン・デューイ他) (1934)
- ◆ マルクス、エンゲルス『共産党宣言』(1948)
- ◆ ウラジーミル・アドラツキー『『共産党宣言』の歴史』(1938)

- ◆ フリードリッヒ・エンゲルス『ユートピア社会主義と科学的社會主義』(1935)
- ◆ カール・カウツキー『フリードリッヒ・エンゲルス：その生涯、業績、著述』(1899)
- ◆ カール・カウツキー『社会主義共和国』(1907)
- ◆ カール・カウツキー『階級闘争』(1907)
- ◆ ウィリアム・ポール『カール・リープクネヒト：人物、業績、メッセージ』(1919?)
- ◆ ローザ・ルクセンブルク『獄中書簡』(1923)
- ◆ ローザ・ルクセンブルク『ロシア革命』(1940)
- ◆ グスタフ・ランダウアー『ドイツの社会民主主義』(1897?)

東欧

- ◆ 『国際社会主義労働者・労働組合会議へ提出されたチェコスラヴ社会民主党報告』(1896)
- ◆ 『チェコスロヴァキアにおける社会主義の進化』(チェコスロヴァキア社会民主労働党) (1924)
- ◆ ロバート・スピヴァク『チェコスロヴァキアの教訓』(1938)
- ◆ 『モリソンの囚人たち：英国に抑留されたチェコスロヴァキアの反ファシスト闘士の物語』(1942)

- ◆ ウラディミール・フルバン『トマーシュ・マサリク』(1943)
- ◆ ヤン・パバネク『チェコスロヴァキア』(ヤン・マサリク序文) (1945)
- ◆ 『ズデーテン地方の社会主義者の悲劇』(ズデーテンの社会主義者救援委員会) (1945)

ロシア・ソ連

- ◆ ミハイル・バクーニン『神と国家』(1905?)
- ◆ ヘンリー・シーモア『ミハイル・バクーニン：伝記的素描』(1888)
- ◆ ギイ・A. アルドレッド『バクーニン』(1940)
- ◆ クロボトキン『若者に訴える』(1931)
- ◆ クロボトキン『国家、その歴史的役割』(1947)
- ◆ レーニン『アメリカの労働者への手紙』(1918)
- ◆ レーニン『レーニン、若者に語る』(1936)
- ◆ マクシム・ゴーリキ『人物ニコライ・レーニン』(1924?)
- ◆ ヴィクトル・セルジュ『レーニンからスターリンへ』(1937)

- ◆ トロツキー『レーニンの消された証言』(1935)
- ◆ トロツキー『スターリンの捏造体制とモスクワ裁判』(1950)
- ◆ アルバート・ゴルドマン『レオン・トロツキーの暗殺』(1940)
- ◆ ブハーリン『共産主義のABC』(1921)
- ◆ マックス・イーストマン『ソヴィエト・ロシアにおける教育と芸術』(1919)
- ◆ 政治犯国際委員会『ロシアの監獄からの書簡』(1925)
- ◆ ヴィクター・バーガー『ロシア管見：形成途上の社会主義』(1936?)
- ◆ マックス・シャハトマン『モスクワ裁判の背後で』(1936)
- ◆ アンナ・ルイーザ・ストロング『ソ連はそれを予期していた』(1942)

アメリカ

■社会主義

- ◆ ローレンス・グロンランド『協同組合共和国：現代社会主義の解説』（1886?）
- ◆ ユージン・ヴィクター・デブス『米国の運動』（1900?）
- ◆ ユージン・ヴィクター・デブス『社会主義の成長』（1902?）
- ◆ ユージン・ヴィクター・デブス『社会主義党と労働者階級』（1904?）
- ◆ ユージン・ヴィクター・デブス『鉄道労働者たちよ』（1906）
- ◆ ユージン・ヴィクター・デブス『産業連合主義』（1911?）
- ◆ ウォルター・ハート『ユージン・V・デブス』（1900?）
- ◆ ジャック・ロンドン『デブスの夢』
- ◆ 米国社会党『デブスの遺産：戦争に対する闘争』（1935）
- ◆ マックス・イーストマン『第2「マシズ」裁判の陪審員への呼びかけ』（1918?）
- ◆ ジョン・リード『シソソ文書』（1918）
- ◆ ジェイムズ・バーナム『人民戦線：新たな裏切り』（1937）
- ◆ ジェイムズ・バーナム『戦争との闘い方』（1938）
- ◆ ドワイト・マクドナルド『ファシズムとアメリカのシーン』（1938）
- ◆ ドワイト・マクドナルド『戦艦でなく職を!』（1940）
- ◆ C.L.R. ジェイムズ他『合衆国におけるトロツキズム 1940年-1947年』（1947）

■労働運動

- ◆ サミュエル・ゴンパーズ『米国の労働運動：その性質、成果、宿願』（1914）
- ◆ サミュエル・ゴンパーズ『政治的労働党は結成すべきか』（1918）
- ◆ エリザベス・ガーリー・フリン『デブス、ヘイウッド、ラッテンバーグ』（1939）
- ◆ エリザベス・ガーリー・フリン『炭鉱労働者と戦争』（1942）
- ◆ エリザベス・ガーリー・フリン『より良き世界のための闘いにおける女性の場所』（1947）
- ◆ 世界産業労働組合『世界産業労働組合の理論と実践』（1937?）

■共産党・共産党系知識人

- ◆ 米国共産党『米国労働者へのマニフェスト』（1922）
- ◆ 米国共産党『米国共産党の危機』（1930）
- ◆ 米国共産党『裁かれる人種憎悪』（1931）
- ◆ 米国共産党『米国共産党史の諸段階』（1943）
- ◆ 米国共産党『米国共産党の30年（1919-1949）』（1949）
- ◆ スコット・ニアリング『大いなる狂気：アメリカの富者の支配のための勝利』（1917）
- ◆ スコット・ニアリング『革命のヨーロッパ：書簡』（1920）
- ◆ スコット・ニアリング『アメリカ帝国』（1921）

- ◆ スコット・ニアリング『ソヴェト共和国瞥見』（1926）
- ◆ スコット・ニアリング『戦争のない世界』（1931?）
- ◆ スコット・ニアリング『ファシズム』（1933）
- ◆ スコット・ニアリング『ヨーロッパの市民戦争：最初の20年、1917年-1936年』（1936）
- ◆ ウィリアム・Z・フォスター『ロシア革命』（1921）
- ◆ ウィリアム・Z・フォスター『鉄道労働者の次のステップ』（1921）
- ◆ ウィリアム・Z・フォスター『アメリカ労働運動の破綻』（1922）
- ◆ ウィリアム・Z・フォスター他『米国の労働組合』（1925）
- ◆ ウィリアム・Z・フォスター『産業組合主義』（1936）
- ◆ ウィリアム・Z・フォスター『世界資本主義と世界社会主義』（1941）
- ◆ アール・ブラウダー『階級闘争と階級協調』（1924?）
- ◆ アール・ブラウダー『リンカーンと共産主義』（1936）
- ◆ アール・ブラウダー『アメリカの人民戦線』（1936）
- ◆ アール・ブラウダー『アメリカ史における反逆者』（1938）
- ◆ アール・ブラウダー『米国共産党：その歴史、役割、組織』（1941）
- ◆ アール・ブラウダー『米国労働界の左派の衰退』（1948?）
- ◆ アール・ブラウダー『ケインズ、フォスター、マルクス』（全2巻）（1950）
- ◆ エリザベス・ガーリー・フリン『アール・ブラウダー：カンザス出身の男』（1941）
- ◆ ジェームズ・S・アレン『アメリカの黒人』（1932）
- ◆ ジェームズ・S・アレン『黒人の解放』（1938）
- ◆ ジェームズ・S・アレン『戦後の繁栄のための世界の協調』（1945）
- ◆ ジェームズ・S・アレン『マーシャルプラン-復興か戦争か』（1948）
- ◆ ジェームズ・S・アレン『原子力と社会』（1949）
- ◆ ハーバート・アブシーカー『アメリカ革命における黒人』（1940）
- ◆ ハーバート・アブシーカー『奴隷制廃止運動における黒人』（1941）

■アナキズム

- ◆ エマ・ゴールドマン『愛国主義：自由への脅威』（1908）
- ◆ エマ・ゴールドマン『結婚と愛』（1914）
- ◆ エマ・ゴールドマン『アナキズム』（1916）
- ◆ アレクサンダー・バークマン、エマ・ゴールドマン『裁かれるアナキズム：バークマン、ゴールドマン演説集』（1917）
- ◆ エマ・ゴールドマン、アレクサンダー・バークマン『監獄の経験断章』（1919?）
- ◆ エマ・ゴールドマン『世界における個人の地位』（1940）
- ◆ ヴォルテリン・ドゥ・クライアー『エマ・ゴールドマンと収用の権利の擁護』（1894）
- ◆ ポール・アヴリッチ『アナキズム：世界の諸問題の解決』（1940）

ラテンアメリカ

- ◆ ロバート・アレクサンダー『ラテンアメリカの労働党』（1942）
- ◆ パブロ・ネルーダ『樵夫よ、目覚めよ、ネルーダ詩集』（1950）
- ◆ エドゥアルド・フレイ・モンタルバ『チリの銅に関する新政策』（1965）
- ◆ ペドロ・カメホ『アジェンデのチリは社会主義に向かうか?』（1971）
- ◆ ウーゴ・ブランコ『ウーゴ・ブランコのチリとペルー論』（1972）
- ◆ ウーゴ・ブランコ『チリのクーデタ：現地報告と評価』（1973）

- ◆ グレー・フォリー、マリク・ミア『チリの悲劇：革命的高揚とその敗北の教訓』（1973）
- ◆ フィデル・カストロ、ベアトリス・アジェンデ『英雄主義の最高の実例：サルバドル・アジェンデへのオマージュ』（1973）
- ◆ ルイス・コルバラン『ルイス・コルバランは告発する』（1975）
- ◆ 『革命の1,000日：チリ共産党指導者によるチリの出来事分析』（1978）

インド

- ◆ サラ・H・ゴストリング『インドの貧困と土地問題』（1886）
- ◆ ダーダーバーイー・ナオロジー『インドの為替と金銀複本位制』（1886?）
- ◆ 『ダーダーバーイー・ナオロジー：その生涯の素描』（1908?）
- ◆ ウィリアム・バークマイア『インドの富とその増進を妨げる物』（1890?）
- ◆ ウィリアム・L・ヘア『インドの飢饉：その原因と帰結』（1901）
- ◆ ジェイムズ・ケア＝ハーディ『インド：印象と提言』（1909）
- ◆ ジェイムズ・ウィルソン『パンジャブにおける人民の状態』（1910）

- ◆ アニー・ベサント『インドにおける強制と抵抗』（1919）
- ◆ アニー・ベサント『インドが自治を欲する理由』（1919）
- ◆ 『ガンジー裁判』（米国ムスリム協会）（1922?）
- ◆ シャブルジ・サクラトヴァラ『インドにおけるイギリス帝国主義』（1925?）
- ◆ レジナルド・A・レイノルズ『インド、ガンジー、世界平和』（1931）
- ◆ マナベンドラ・ローイ『私は告発する!：反逆罪裁判での声明から』（1932）
- ◆ ジャワハルラール・ネルー『インドはどこへ行く』（1933）



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける無料トライアルをご提供しております。

商品に関するお問い合わせは、センゲージャーニング株式会社までお願いします。

Tel : 03-3511-4390 E-mail : GaleJapan@cengage.com URL : www.gale.com/jp